



Higashi Sapporo
Hospital's
Newsletter MADO

June 2023 No.113

第3回・第4回合同 がん緩和ケアに関する 国際会議 (SCPSC) のご報告



がん緩和ケアに関する国際研究学会実行委員長
東札幌病院 内科・副院長

日下部 俊朗

第3回・第4回合同がん緩和ケアに関する国際会議 (SCPSC) は、2023年4月27～29日に札幌パークホテルで開催され、無事終了いたしました。世界で活躍されている一流の先生方による招待講演約30題と、一般演題約100題を登録いただき、22カ国から約1,000人に参加いただきました。

1日目午前はシンポジウム1「オピオイドとがんの痛み：進化するその科学と実践」というテーマで、Dr. Russell Portenoyの司会のもと、オピオイドの最新の科学と実践について議論がなされました。ランチオンセミナーはがん緩和ケアの先達であるProf. Stein Kaasaに「オンコロジーと緩和ケアの統合：その歴史と未来への方向性」を講演いただきました。午後はプレナリーセッション1「臨床腫瘍学と緩和ケアの統合 - 最近の動向」というテーマで、臨

床腫瘍学や緩和ケア各領域における第一人者の先生方から最新の研究成果について講演をいただきました。イブニングセミナーではEuropean Association for Palliative Careの元会長で、看護師であるProf. Philip Larkinに「緩和ケア看護学」について講演いただきました。

2日目はPsycho-oncologyおよび人文科学の領域がテーマでしたが、午前はシンポジウム2「なぜ緩和ケアにスピリチュアルケアを組み込むことが必要なのか」として、スピリチュアリティについて本質的な議論がなされました。ランチオンセミナーはProf. Sheldon Solomonに「医療、そして生と死における緩和ケア：その実存的意義」を講演いただきました。午後のプレナリーセッション2では「緩和ケアの臨床における実存的苦痛の要因とその影

Higashi Sapporo Hospital
医療法人
東札幌病院

2023年6月発行
発行責任者／病院長 石谷邦彦
札幌市白石区東札幌3条3丁目7-35
TEL.011-812-2311 (代表)
FAX.011-823-9552
E-mail : info@hsh.or.jp
HP : <https://www.hsh.or.jp>

響」をテーマに、サイコオンコロジーの立場から実存的苦痛の本質とそのケアのあり方について議論がなされました。イブニングセミナーでは緩和ケアの医療政策の若手研究者であるDr. Joseph Clarkに「グローバルな緩和ケアの発展に向けて」を講演いただきました。

3日目午前はプレナリーセッション3「Technology-Enabled Care (TEC) in Palliative care」でしたが、Dr. David Huiの司会のもと、テクノロジーを用いた緩和医療の可能性について様々な取り組み、またそれによって生じる倫理的な問題などについても議論しました。ランチョンセミナーでは、BMJ Supportive and Palliative Care, Editor-in-chiefであるProf. Declan Walshに「サポーターティブ・オンコロジー：米国の大手がん研究所における新しい専門領域としての活動状況」について講演いただき

ました。午後は、Dr. Harvey Max ChochinovとDr. Friedrich Stiefelの司会で、シンポジウム3「安楽死・医師による自殺補助と緩和ケア、その本質的な議論に臨む」というテーマでしたが、諸外国での現状も含めて幅広い議論が行われました。

いずれの講演もその内容や質の高さに圧倒され、非常に高いレベルでのディスカッションも活発に行われており、SCPSCはがん緩和ケアに関するアジアを代表する学術会議となりました。

ご講演を賜りました先生、座長の先生、当日ご参加いただきました皆様、SCPSCに多大なるご支援を頂きました皆様に深く感謝申し上げます。3年後の2026年には第5回SCPSCを計画していますが、SCPSCはアジアにおける緩和ケアの学術集会として今後も発展してまいります。

▼招待演者・座長の先生方





写真で振り返る

第3回・第4回

がん緩和ケアに関する国際会議

2023年4月27日～4月29日の3日間、札幌パークホテルを会場に開催した国際会議は大盛況のうちに閉会を迎えました。その模様を、写真でお届けします。

Day 1

●受付開場



●オープニングセレモニー



●シンポジウム1





写真で振り返る

第3回・第4回 がん緩和ケアに関する国際会議



● ランチョンセミナー1



● プレナリーセッション1



● イブニングセミナー1



● シンポジウム2

Day2



● ランチョンセミナー2



● イブニングセミナー2



● プレナリーセッション2



Day3

● オープニングセレモニー



● プレナリーセッション3





写真で振り返る

第3回・第4回 がん緩和ケアに関する国際会議

●シンポジウム3



●ランチョンセミナー3



●ポスターセッション

●クロージングセレモニー



尊厳

－第2章 「人間の尊厳(human dignity)」と「生命の尊厳(sanctity of life)」－



The International Research Society of the SCPSC 理事長
医療法人東札幌病院 理事長・院長

石谷 邦彦

「生命の尊厳」は「人間の尊厳」と同じような文脈で語られるのであろうか？

今から30年以上も前、私の友人であり患者でもあった宗教哲学者 大出哲氏から、彼が中心となって翻訳したジョヴァンニ・ピコ・デッラ・ミランドラの著書「人間の尊厳について」を寄贈された。1496年の著書である。ピコは善きキリスト教徒として生き、哲学と神学の研究者であったという。人間を卓越した存在と捉え、その一節に“神のアダムへの言葉－人間は自由意思に基づいて自己の本性を決定する”とあり私はかなり混乱した覚えがある。大出哲氏らは高名な哲学者 北海道大学名誉教授 花田圭介氏の愛弟子達である。

当時、私は「人間の尊厳」に帰するQuality of Life (QOL) 概念を、1988年、日本の医学界に初めて紹介している。その際一般的に対極の概念として信じられていたSanctity of Life (SOL) についても大きな関心を持っていた。その後、約半世紀を経て、

簡素化して図式的に言えば、SOL概念は延命医療の根拠であり、QOL概念は限りある人生の象徴であった。そしてそれらは調和を図りながらも、医療の上では先進国を中心としてQOL概念が大きな価値基準となっていた。すなわちそれはフォーコーの言うエピステーメ(一時代の文化全体の規定にある認識の系、あるいは根底的な「知」として理解される。

カントに始まる「人間の尊厳」概念は、20世紀には二つの世界大戦を経た巨大なカタストロフィに対峙しそれを克服する対抗理念として重要視され、国連憲章や世界人権宣言などにおいて「人間の尊厳と人権との相互関係」に明示された。20世紀後半から現在は、医療科学技術の発達に伴い「人間の尊厳」概念は生命倫理的コンテキストの中で批判的反省を踏まえて激しく議論されている。それは緩和ケアの領域においてもゲノム医療、安楽死問題を含めて然りである。

カント的尊厳概念は、個人の自由とそれを律することに対する無条件の尊重という考え方に基づいてい

る。すなわち「自律」こそが尊厳の要諦なのである。

「人間の尊厳」という言葉には尊厳の尊重が含まれているが、尊厳の尊重が人間の生命に対する無条件の尊重に値するという結論には至らない。例えば安楽死を望む人の意思と実行に移すことを尊重する考えに賛否があることや、新型コロナウイルス・パンデミックでのトリアージについての倫理的議論などは良く知られている。その際引き合いに出される概念がSOL概念である。20世紀の人道主義者と知られている密林の聖者 シュヴァイツァーの著書「生命への畏敬 (Reverence of Life)」の概念は“生命は、それ自体が唯一の(内在的)価値である”を主軸とし現在のSOL概念の議論の起点となっている。彼はサルトルの近い親戚でもあり、哲学の分野でも優れた業績を残している。「生命の尊厳」の尊重は、人間の生命それ自体が尊重の対象となるのではなく、人間から見て自然な発達を経て生きていると考えられる生あるものを含んだ、全ての生物が尊重の対象となる。従って「Sanctity of Life」は、むしろ語源的にも「生命の神聖性あるいは不可侵性」と解釈される。シュヴァイツァーの生命に対する畏怖は、「形

而上学的な畏敬」概念ともいわれている。これは宗教的背景に演繹される根拠となる。さらにシュヴァイツァーは、生命が悲惨な状況にあることを説いておきながら、その一方ではそのような生命が唯一の価値であるという矛盾を抱えているが、彼の概念が環境倫理学の原理と目されている。「生命の尊厳」概念は保護主義的であり、さらに自然への尊重の倫理学は意図的に反人間中心主義でもある。このように幾多の議論を経ながら、これまでのところ「生命の尊厳」を支持する説得力のある根拠付けは見出されていない。

「人間の尊厳」に関し“尊厳に値する者には尊厳を”ともいわれるが、カントは「自己自身に対する義務は、ただちに他者に対する義務を要請する」としたように尊厳を有する者はそれを担保する内在的な性質を基盤としなければならない。それは基本的人権の内実を供給する全ての人間に備わる道徳的な源泉である。

日本に「人間の尊厳」を見事に体現した作家が居た。それは三島由紀夫である。

参 考 文 献

『人間の尊厳について (De hominis dignitate)』ジョヴァンニ・ピコ・デッラ・ミランドラ (Giovanni Pico Della Mirandola) 著 大出哲・阿部包・伊藤博明訳、国文社、1985

『進行・末期がん治療-Quality of Lifeについて』石谷邦彦・漆崎一朗、からだの科学、Vol.142、p99-104、日本評論社、1988

『生命への畏敬 (Reverence for Life)-アルベルト・シュヴァイツァー書簡集1905-1965』アルベルト・シュヴァイツァー (Albert Schweitzer) 著 ハンス・ワルター・ベール (Hans Walter Bahr) 編 会津伸・村松国隆訳、新教出版社、1993

『Sanctity of Life and Human Dignity』Kurt Bayertz, Philosophy and Medicine, <https://doi.org/10.1007/978-94-009-1590-9> 1996, Springer Dordrecht

『The Legal Revolution: From “Sanctity of Life” to “Quality of Life” and “Autonomy”』John Keown, J Contemp Health Law and Policy, 14,253-285, 1998



追悼 マイケル・ブレシア先生

当院と姉妹提携をしている

カルバリー病院(ニューヨーク)の創始者の1人であり、

当院の職員の研修にも大変協力いただいていたマイケル・ブレシア先生が、

4月にお亡くなりになりました。

これまでの先生のご厚情に感謝し、心から追悼の意を捧げます。



マイケル・ブレシア先生の訃報は、2023年4月28日のウォール・ストリート・ジャーナルでも報じられました。

記事はこちらからご覧いただけます。▶<https://www.wsj.com/articles/michael-brescia-who-gave-up-profits-to-comfort-the-dying-dies-at-90-109d869f>

第82回 日本医学放射線学会の参加報告／ExacTrac®の紹介

放射線科部長 堀 正和

今回は、二つほど放射線科の話題を提供したいと思います。一つ目は、4月13日から15日まで参加致しました日本医学放射線学会の報告、そして二つ目は6月12日より当院放射線治療機に実装され稼働することとなったExacTrac®(イグザクトラックと呼びます)のご紹介です。

日本医学放射線学会の報告

日本医学放射線学会は年2回、春と秋に開催されますが、春は毎年、パシフィコ横浜で開催され、今回で82回を迎えました。技師の学会(日本放射線技術学会)、医学物理士の学会(日本医学物理学会)と合同で開催され、Web参加を含めた合計登録者数は13,044人、現地参加者は8,248人とのことでした。広大な機器展示場では国際医用画像総合展が併催され、150社ほどの企業が様々な放射線関連の機器展示をしており、最新のCT、MRI、核医学装置、透視装置、マンモグラフィ、超音波装置、放射線治療機など実機を見たり、触れたりすることができます。この展示会には16,571人が入場したとのことでした。

私はといえば、専門医の維持に必要な必須講習や教育講演を受講し、単位取得と知識のブラッシュアップをしてきました。この学会は治療のセッションもありますが、診断がメインです。診断領域では、業務の効率化や画像処理の最適化などにAIが活用されており、各社が様々なソフトを開発し、しのぎを削っている状況でした。放射線治療関係では、MRIと一体となった放射線治療機が印象的でした。治療を行いながらMRI画像を撮影し、腫瘍の大きさはもちろん、腫瘍内の信号変化をリアルタイムにモニターできることで、これまでとは違った治療効果の予測や、放射線治療の新たな最適化が可能となります。高価な医療機器であり国内で運用している施設はわずかですが、続報が楽しみです。

ExacTrac®の紹介

放射線治療は次のような流れで行います。①治療用CTを撮影する(このとき患者さんの体表、正面と左右の3カ所にインクで印をつけ原点とします)、②CT画像をもとにして治療計

画を行う(治療の中心を決定します)、③患者さんを治療の台にセットアップする(CTと同じ姿勢)、④CTの原点から治療の中心に台を移動する、④移動した治療中心が治療計画上の中心と相違ないか、X線写真を正面・側面で撮影し、骨構造を参考に対比を行う、⑤相違があれば移動する、⑥治療ビームを照射する。

実は、④の作業では、カセットを設置してX線撮影を行う→現像する(CR機に取り込む)→モニターで確認する、という過程を、正面、側面それぞれで行うので、15分程度の時間がどうしてもかかってしまいます。⑤で修正を要する場合はさらに数分の時間を要します。骨転移等で痛みのある患者さんの場合、この間に動かずにいることを強いられるのは非常につらいことです。これまでは、「病棟で十分な鎮痛剤を使用してきた」「柔らかいマットを使用する」「側臥位やフェーラー位が楽な場合は体を包み込むような吸引枕を使用する」「位置照合を簡素化できるような単純な治療計画を作成する」「ある程度の動きを許容できるような大きい照射野を設定する」などで対応してきました。

現在の放射線治療機の多くは位置照合装置と一体型となっていますが、ExacTrac®は当院のような、位置照合装置を持たない放射線治療機に外付けできるというのが特徴です。そしてひとたびこれが実装されると、④、⑤の工程を1~2分で行うことが可能となります。緩和照射に限らず、様々な症例でこれまで以上に正確な放射線治療を提供できるのではないかと期待されます。

※ExacTrac®についての詳細は以下参照

https://www.toyo-medical.co.jp/products/medical/accessories_rt/igrt-equipment/igrt-system-exactrac/より

この度の学会参加に際しましては、ペースメーカー症例で代わりに照射時に立ち合ってくださいました町野先生に大変お世話になりました。この場を借りてお礼を申し上げます。

ExacTrac®の導入に際しまして、石谷理事長や菅野部長、多田部長に多大なご理解を賜り感謝申し上げます。山口課長には、お忙しい中、業者さんの対応などでお世話になりました。ありがとうございます。そして医療技術部放射線課のみなさま、引き続きご協力のほどを、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

新任医師自己紹介

2023年4月に当院に着任した4名の医師を紹介します。



呼吸器内科医長
梅田 泰淳

4月より着任しました呼吸器内科の梅田です。平成15年に札幌医科大学を卒業し、呼吸器・アレルギー内科学講座に入局しました。旭川、釧路、函館、北見と北海道各地で研修を積み、各地の名産物を楽しんでおりました。今年3月まで3年間、ちょうどコロナ禍で大変な時期でしたが、札幌北辰病院で勤務しておりました。

地元は帯広で小さい頃から美味しいお菓子を食べて過ごしてきました。今もつい甘いものに手が行きそうになりますが、節制を心掛けております。

東札幌病院ではこれまで携わっておりました呼吸器内科の診療に加え、緩和ケアの診療も担当させていただきます。患者様の意思が尊重され、最良の治療やケアが選択できるように

勤めていきたいと思っています。

呼吸器内科の人数は少ないですが、医療スタッフと協力し、よりよい治療、ケアを提供していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。



歯科口腔外科
大内 千里

初めまして、4月1日に歯科口腔外科に着任いたしました大内千里と申します。出身は十勝の幕別町で、平成30年に北海道医療大学歯学部を卒業しました。卒業後は北海道大学口腔診断内科学教室（第一口腔外科）にて1年間、研修医を行い、その後大学院に進学し1年間、外来と病棟を経験した後、口腔カンジダ症についての基礎研究を3年間、行っておりました。

私自身、北大に在籍していた頃に顎変形症の治療に関わるが多かったこともあり、顎変形症手術の症例数の上位を争う東札幌病院に来ることができました。前歯でとんかつが噛み切れない、奥歯で食べ物をうまく噛めない等の患者さんたちが、「術後に食べられるものが

増えた！食事が楽しい！とんかつが食べられる！」と嬉しそうに話してくれる姿を見て、この手術に魅力を感じました。

東札幌病院では今まで携わる機会があまりなかった緩和ケアの患者さんも多いため、口腔ケアを含めて多くのことを勉強し、吸収していきたいです。病院の理念である『医療の本質はやさしさにある』を患者さんはもちろん、関わっていただいているすべての人に実施できるよう心がけていきます。まだ臨床経験が浅く不慣れな点が多々ありご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、少しでもお役に立てるよう精進してまいりますので何卒よろしくお願い申し上げます。



緩和ケア内科
齊藤 成臣

4月1日より東札幌病院緩和ケア内科に着任致しました、齊藤成臣と申します。

私は北海道富良野市出身で順天堂大学を卒業しました。その後、北海道内で一般内科医として勤務してきました。また着任前には札幌市内で在宅医療に従事していました。

今まで主に高齢者を診療してきて、充実した毎日を送っておりましたが、在宅医療を行うにあたってがん患者さんの終末期に携わる機会があり、より多くの症例をより深く勉強したいと考え、東札幌病院で働くことを希望しました。実際、東札幌病院には多くのがん患者さんがおり、独学ではイメージが付きにくかったことも、実際の症例を経験することでしっかりと身につけていると実感しております。

東札幌病院では、緩和ケア医として、患者さんのがんによる症状の苦痛を取り除くだけでなく、スピリチュアル・ケアなど苦痛に寄り添う医療を自分なりに確立することが一つの目標でもあります。まだまだ勉強不足ですので時間がかかるとは思いますが、幸いにも素晴らしい先輩方に恵まれました。先輩方より日々少しでも多くのことを吸収できるよう努力していきたいと考えています。

入職以来、職員の方々には多くのことを教えていただき、とても感謝しています。慣れない仕事でご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、一日も早く仕事に慣れるよう頑張りたいと思っていますので、どうかご指導の程、宜しく申し上げます。



血液内科
佐藤 健

皆様、こんにちは。この4月より血液内科に着任致しました、佐藤 健(さとう けん)と申します。平成25年に札幌医科大学を卒業(60期)しています。昨年まで5年間、旭川赤十字病院という施設で主に血液内科一般、血液がん診療、造血幹細胞移植といった内容に携わってまいりました。血液内科は固形がんとは異なり、外科的に取り除きることができない状態の患者さんがほとんどです。そのため、患者さんは診断時に大変落胆されることが多いのですが、日進月歩の血液がん領域では日々優れた治療が開発され、患者さんの力になれることが増え続けています。患者さんの体調やご年齢、ご家族やご家庭の環境、そして人生観といった部分をしっかりと配慮しながら、患者さんの笑顔のた

めに精一杯頑張らせていただきます。

また、家庭では二児の父として家事育児を、その他にも慣れない大学院の課題などいろいろなことに奮闘しています。院内で見かけたらどんなことでも構いませんので、お気軽にお声かけいただけると嬉しいです。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

外来医師スケジュール

(2023年6月1日～)

診療時間	月	火	水	木	金	土	
午前 9:00~12:00	1診 (内科初診)	長岡★	日下部★	伊藤★	佐賀★	偶数週 佐藤(健)/ 奇数週 小野★	交代制★ (内科初診/再診)
	2診	石谷 (一般内科)	石谷 (一般内科)	石谷 (一般内科)	三原 (一般/腫瘍内科)	三原 (一般/腫瘍内科)	出張医 (内科初診/再診)
	3診 (消化器内科)	日下部	伊藤	渡邊	長岡	日下部	
	4診 (循環器内科)	高木	古谷	高木	秋津	秋津	
	5診	梅田 (呼吸器内科)	出張医 (整形外科)	出張医 (呼吸器内科)	佐藤(健) (一般/血液内科)	伊達 (呼吸器内科)	
	6診 (一般外科)	信岡	信岡	久慈	信岡	久慈	交代制
	7診 (心療内科)	久村 (心療内科)	大村 (乳腺・甲状腺外科)	里見 (一般外科/乳腺・甲状腺外科)	大村 (乳腺・甲状腺外科)	照井 (一般/糖尿病内科)	
	8診(11:00~) (発熱者・必要時に対応)	照井	奇数週 信岡/ 偶数週 町野	久慈	梅田	三谷	
	9診			佐藤(昇) (病をよく識る外来)		(セカンドオピニオン外来)	
	放射線治療	堀	堀	堀	堀	堀	
	内視鏡	安保	渡邊	佐賀	出張医	伊藤	交代制
	腹部エコー			三谷			
歯科・ 歯科口腔外科	水越/太子 大内/石谷	水越/太子 大内/石谷	水越/太子 大内/石谷	水越/太子 大内/石谷	水越/太子 大内/石谷	交代制	

診療時間	月	火	水	木	金	土	
午後 14:00~17:00	1診(13:30~) (内科初診/再診)	三谷	出張医	出張医	出張医	三谷	休診
	2診	齊藤 (一般/緩和ケア内科)	佐藤(健) (一般/血液内科)	町野★ (一般/緩和ケア内科)	町野 (一般/緩和ケア内科)	齊藤 (一般/緩和ケア内科)	
	3診	佐賀★ (消化器内科)	渡邊★ (消化器内科)	小野 (一般/血液内科)	伊藤★ (消化器内科)	長岡★ (一般/消化器内科)	
	4診	秋津 (循環器内科)	照井 (一般/糖尿病内科)	照井 (一般/糖尿病内科)	高木 (循環器内科)	出張医 (脳神経内科)	
	5診		梅田 (呼吸器内科)	井須 (整形外科)	梅田 (呼吸器内科)		
	6診 (一般外科)	久慈★	久慈	久慈★	信岡/久慈★	信岡	
	7診		大村 (乳腺・甲状腺外科)	大村 (乳腺・甲状腺外科)			
	8診						
	内視鏡室	頭頸部外科出張医					
	放射線治療	堀/出張医	堀	堀	堀/出張医	堀/出張医	
	内視鏡	伊藤	佐賀/伊藤	長岡	出張医	佐賀	
	歯科・ 歯科口腔外科	水越/太子 大内/石谷	水越/太子 大内/石谷	水越/太子 大内/石谷	水越/太子 大内/石谷	水越/太子 大内/石谷	

★救急対応

- ※8診午前は発熱者・必要時に対応(当日予約のみ) 月曜日～金曜日11:00～
- ※6診午後の外科外来は、手術等により診療時間に変更となる場合があります。
- ※外来受付時間 月曜日～金曜日8:30～17:00 土曜日8:30～12:00
- ※土曜日は交代制となっております。詳細はお問い合わせください。
- ※緊急対応等に備え、内科医師1名は13:30から待機いたします。

- ※当院では、待ち時間短縮のために予約制を導入しております。予約外診療も行っております。詳細は受付にお問い合わせください。
- ※病をよく識る外来(要予約) 水曜日9:00～12:00 担当医師:佐藤(昇)
- ※セカンドオピニオン外来(要予約) 金曜日9:00～12:00
- ※石谷外来 火曜日9:00～11:00
- ※放射線治療外来は、地下1階診察室です。



医療法人東札幌病院は、公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価（一般病院2 3rdG: Ver.2.0）の認定を受けています。

■認定期間
2020年9月26日～2025年9月25日



日本医療機能評価機構
認定第 JC669 号

一般病院2 3rdG:Ver.2.0



●交通のご案内
地下鉄東西線「東札幌駅」より
徒歩5分

駐車場について

当院の駐車場はゲート式になっております。駐車場ご利用の方は、受付または事務室にて駐車券をご提示ください。ご利用料金は以下の通りです。

ご利用料金

外来受診・お見舞いなど、当院ご利用の方は、3時間無料です（以後30分50円）。

Higashi Sapporo Hospital

医療法人 東札幌病院

〒003-8585
札幌市白石区東札幌3条3丁目7-35
電話 011-812-2311 (代表)
FAX 011-823-9552
E-mail: info@hsh.or.jp
HP: <https://www.hsh.or.jp>

東札幌病院は皆様に次のような権利があることを認め尊重致します。

1. 医療を受けるにあたって、大切な一人の人間として尊重されます。
2. 受診される方の個人情報やプライバシーが守られます。
3. 病状や病名・検査結果、受ける処置やケアの内容等について十分な説明を受けられます。
4. 適切な説明のもとに受診される方の意志が尊重され、最良の治療やケアが選択できるように支援されます。
5. 身体的なことだけでなく、必要に応じて社会的・心理的な事柄に関しても支援されます。
6. 療養の経過すべてにわたって、ご希望されれば複数の医師の意見を求めることができます。
7. 最善で安全な医療と必要な健康教育をうけることができます。
8. 医学研究等に参加をお願いすることがありますが、拒否することによって不利益を被ることはありません。

東札幌病院を受診される皆様に御協力いただきたいこと

1. 心身の健康に関する情報について担当者にお伝え下さい。
2. 医療者の説明が不十分な時には、十分理解できるまで質問して下さい。
3. 治療やケアの方針を決めるときには、ご遠慮なく医療者と話し合ってください。
4. 医療者と共につくった治療やケアの計画に積極的に参加して下さい。
5. 院内では常識的な社会人として行動して下さいようお願いいたします。
6. 東札幌病院は全館禁煙です。ご理解とご協力をお願いいたします。
7. 東札幌病院では各階に提案箱を設置しております。ご意見やご要望がありましたらご遠慮なくご利用下さい。